

「台風14号における大渡ダムの洪水調節効果」 の発表について（平成17年9月7日速報値）

大渡ダムでは9月6日の台風14号において過去最大の洪水調節を実施し仁淀川の水位を低下させることが出来ました。

1 洪水の実績

今回の洪水は大渡ダムの管理開始以来最大の流量を記録しました。

大渡ダムの流域の累計総雨量 627ミリ
(降り始め4日8時～7日7時)

大渡ダム最大流入量 約4,700 m³/s

大渡ダム最大放流量 約3,200 m³/s

最大洪水調節量 約1,500 m³/s

2 洪水調節の効果（別紙参照）

今回の大渡ダム洪水調節による仁淀川各地点での水位低下効果は以下のとおりです。

伊野地点 (いの町：仁淀川橋上流) 約 0.3 m

越知地点 (越知町：越知沈下橋上流) 約 1.0 m

森地点 (仁淀川町：森沈下橋上流) 約 1.4 m

上記の水位低下効果は大渡ダムにおける洪水調節値(1500m³/s)が及ぼす水位低下量の試算値です。

今回のデータについては速報値であり、照査の結果数値に変更のある場合があります。

問い合わせ先

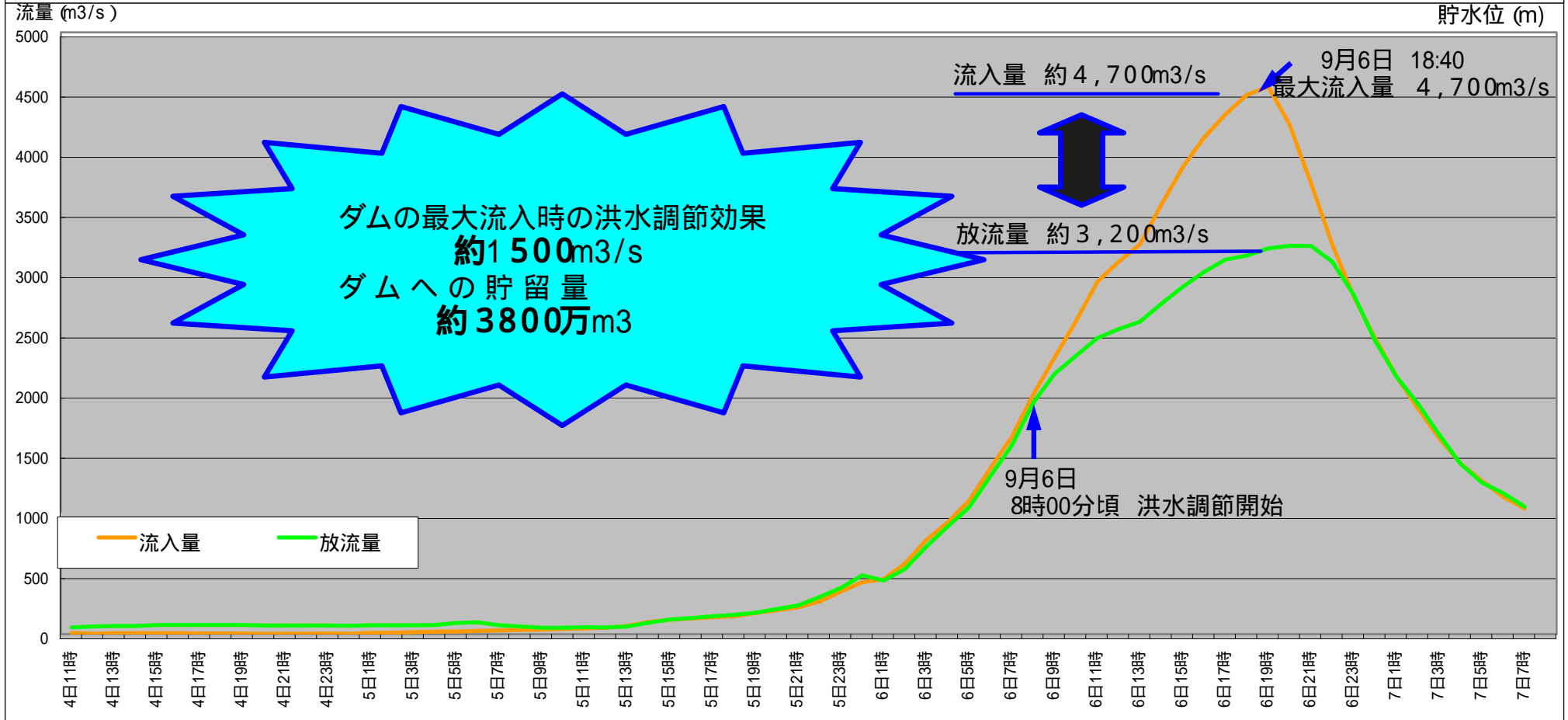
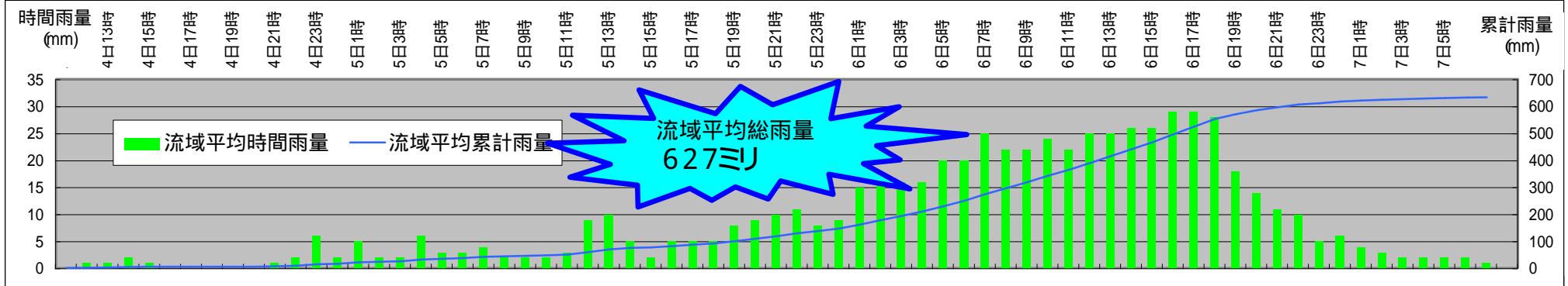
国土交通省 四国地方整備局 大渡ダム管理所

管理所長 ： 前中 良啓

管理第1係長 ： 小原 一幸

TEL：0889(32)2120(代表)

平成 17年 9月 6日 台風 14号における大渡ダム洪水調節グラフ



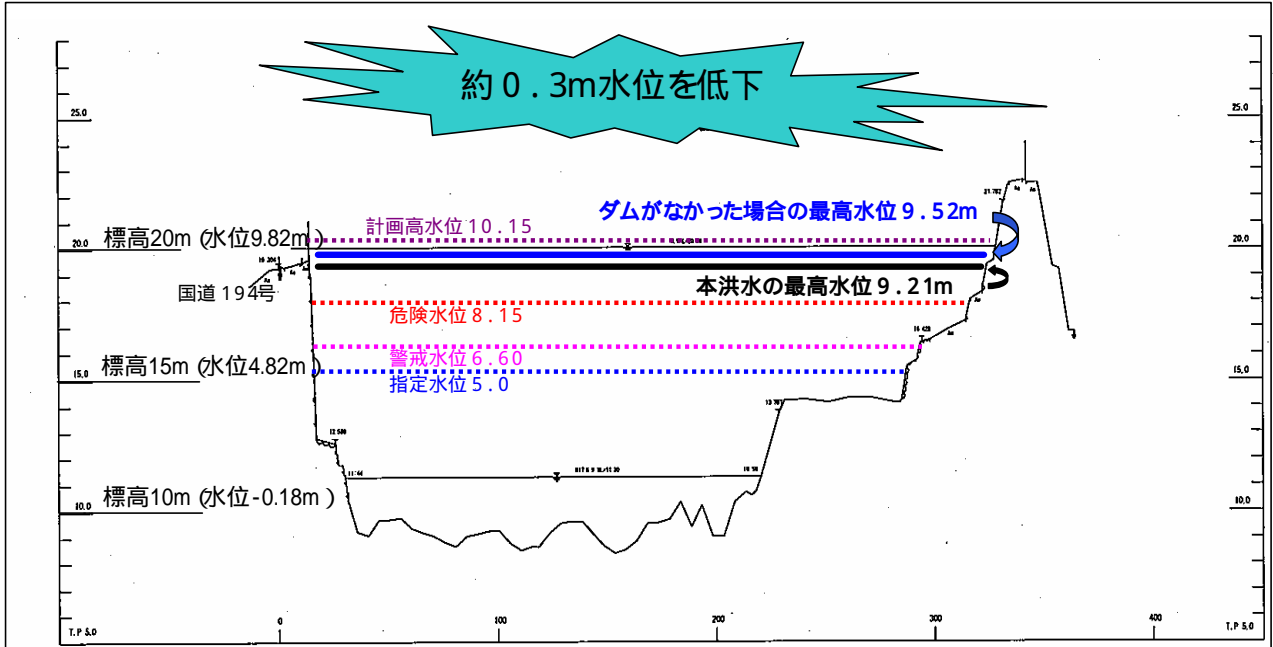
予備放流による洪水調節容量の確保 1000万m³

平成17年9月6日出水における大渡ダムの洪水調節効果

(流出規模: 大渡ダム最大流入量約4,700m³/s)

伊野における大渡ダムの洪水調節効果

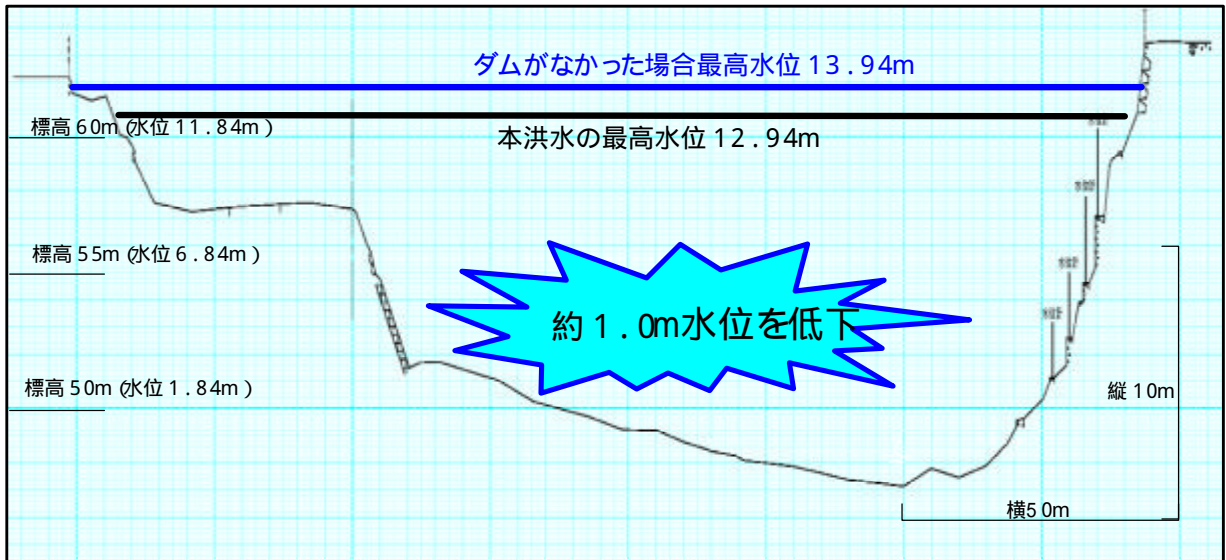
場所: 国道33号仁淀川橋上流付近(12k/0)



上記の水位低下効果は大渡ダムにおける洪水調節値 (1500m³/s) が及ぼす水位低下量の試算値です。

越知における大渡ダムの洪水調節効果

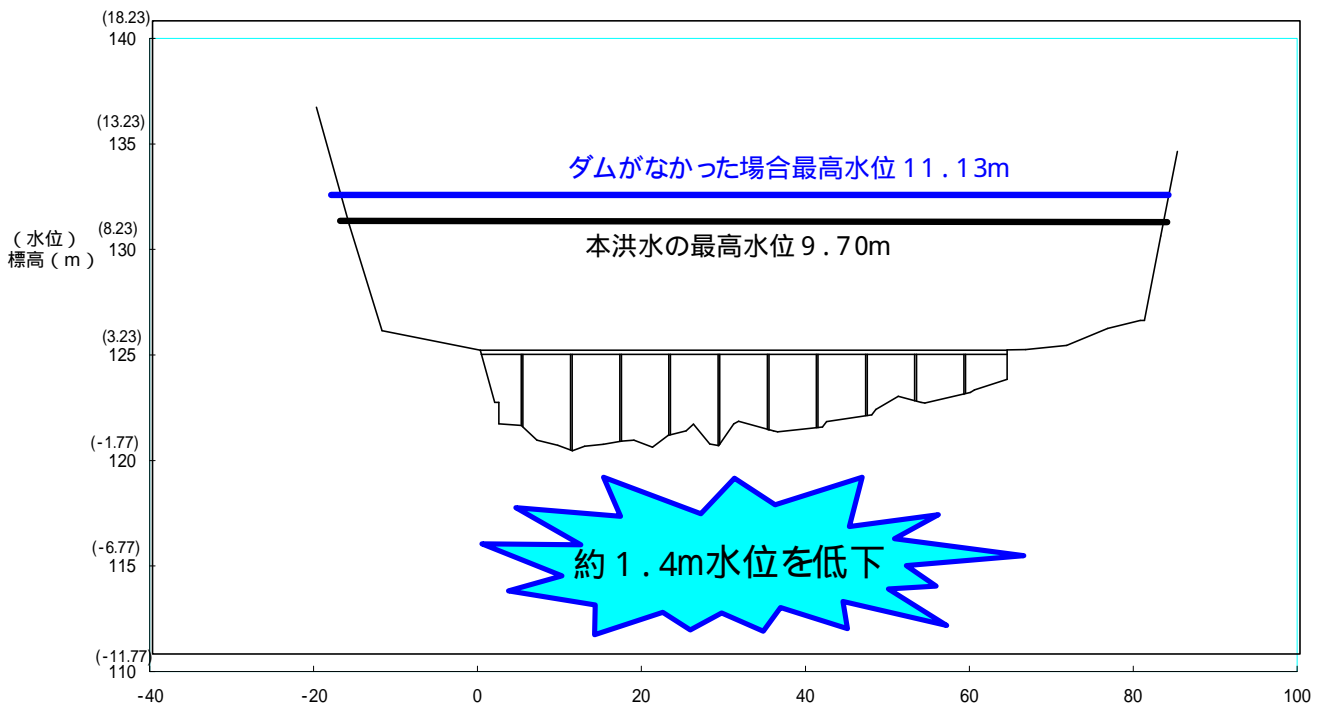
場所 越知水位観測所 (越知沈下橋上流)



上記の水位低下効果は大渡ダムにおける洪水調節値(1500m³/s)が及ぼす水位低下量の試算値です。

森における大渡ダムの洪水調節効果

場所 森水位観測所下流 (森沈下橋付近)



上記の水位低下効果は大渡ダムにおける洪水調節値(1500m³/s)が及ぼす水位低下量の試算値です。